

大学院『専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈学生の受け入れ方針〉

史学専攻修士課程

1. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院史学専攻では、自らが専攻する分野の主題にかんする専門的な歴史研究を通じて、幅広い知識と高度な分析能力を身につけた大学院生に学位を授けます。修了後の職場や家庭生活の中で遭遇するさまざまな状況や出来事、あるいは社会情勢の変化を歴史的な文脈の中で考察し、冷静で的確な評価を下して人生の選択に役立てられる能力を身につけていることを期待します。また、地域社会や国内、ひいては世界に残された歴史的記憶や遺産の重要性を理解し、それぞれの置かれた立場からその保存や活用について考えることのできる女性を育てたいと考えます。

2. 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院史学専攻では、歴史的事象を学問的に探求し、史料を用いて論理的に再構成し、研究の成果を効果的に発信できる能力をもつ学生の育成をめざします。その目的で、幅広い分野と時代にわたって高度な専門的知識を授けることを目的としたコースワーク科目と、修士論文の作成に直結する発信能力を育成するリサーチワーク科目とを準備します。

具体的に、日本史コースでは、古代史から現代史にいたるまでの各時代について多彩な内容をもった授業を用意します。大学院生がみずからの問題関心に従い、これらの授業をつうじて幅広く専門的な知識を得、さらに修士論文の執筆にむけ原史料の読解能力や先行研究を把握・整理する力を身につける機会を提供します。

また東洋史コース、西洋史コースにおいても、大学院生は各時代およびさまざまな地域を専門とする教員の授業を自由に聴講して知見を広める一方、指導教員からは自分の専攻するテーマについての研究史の理解や史料読解の手ほどきを受け、修士論文完成に向けて懇切な指導を受けることができます。

3. 学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学院史学専攻では、学位授与方針に述べた目標を達成するために、十分な能力と意欲を備えた学生を積極的に受入れます。日本史の専攻を希望する学生は、関心をもつ分野の専門文献や史料を理解する基本的な能力が望まれます。東洋史・西洋史の専攻を希望する学生は、専攻領域全般への基礎的知識、ならびに大学院での学修を進展させるのに必要な外国語の読解力が必要です。そしてこれらの素養を養うために、また大学院に進学後の研究能力を客観的に示す手段として、まず学部での卒業論文の執筆に力を尽くしてほしいと思います。

(2018年3月7日更新)